

## ブドウ「安芸クイーン」の着色向上技術

(独) 農研機構果樹研究所が育成したブドウ新品種「安芸クイーン」は、果皮が鮮紅色で美しく、食味も良好であるため、産地への導入が急速に進んでいます。しかし、「安芸クイーン」等の赤色系品種は、成熟期に高温となる地域では良好な着色が得られません。現在着色の良い産地でも、温暖化に伴い着色不良問題が発生する可能性もあります。広島県立総合技術研究所農業技術センターでは、気温と着色との関係を解析するとともに、環状剥皮（幹の皮部を環状に剥ぎ取ること）による高温条件下での着色向上技術を開発したので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. ブドウ「安芸クイーン」の着色に及ぼす温度の影響が最も大きい時期は、着色開始後8～21日の2週間で、この時期の気温が20～25℃に保たれると着色が促進されます。
2. 広島県の瀬戸内海沿岸部での露地栽培の場合、着色に及ぼす温度の影響が大きい時期は7月下旬から8月上旬の最も暑い時期にあたり、夜温が下がらないために着色不良になります。しかし、加温ハウス栽培では、成熟期が簡易被覆栽培に比べて40日早く、この時期の夜温は高くないので、着色は良好となります。簡易被覆栽培でも保温を工夫し、成熟期を2週間早めるだけでも着色は改善されます。
3. 環状剥皮によって着色は向上します(図)。より効果的に着色を向上させ、また、剥皮後のゆ合不良による樹の衰弱を防ぐため、環状剥皮は以下のように実施します。①処理時期は満開後30～35日とします。②剥皮幅は幅5mmとします。③剥皮は内側の薄皮(残存した篩部組織)も完全に除去します。④剥皮部の木片などのゴミはきれいに除去します。⑤剥皮後に露出した部分(木部及び皮部切断面)はビニールテープなどで保護します。⑥約1ヶ月後にテープを取り除きます。⑦剥皮後は極端な乾燥を避け、かん水を適宜行います。



図 ブドウ「安芸クイーン」の環状剥皮による着色改善

### ☆ 活用面での留意点

着果過多の樹では、環状剥皮の着色向上効果は期待できないので、着果量の軽減と組み合わせで実施します。詳細については、広島県立総合技術研究所農業技術センター果樹研究部（電話：0846-45-5472）にお問合せ下さい。（農林公庫 技術参与 後藤 明彦）